



ASEAN調査

外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

Ipsos 香港はSO20252:2012年 国際市場調査品質基準の認証を得ており同基準を順守しています。また、ESOMAR職業行動規範の基準ならびに業界要件に従っています。

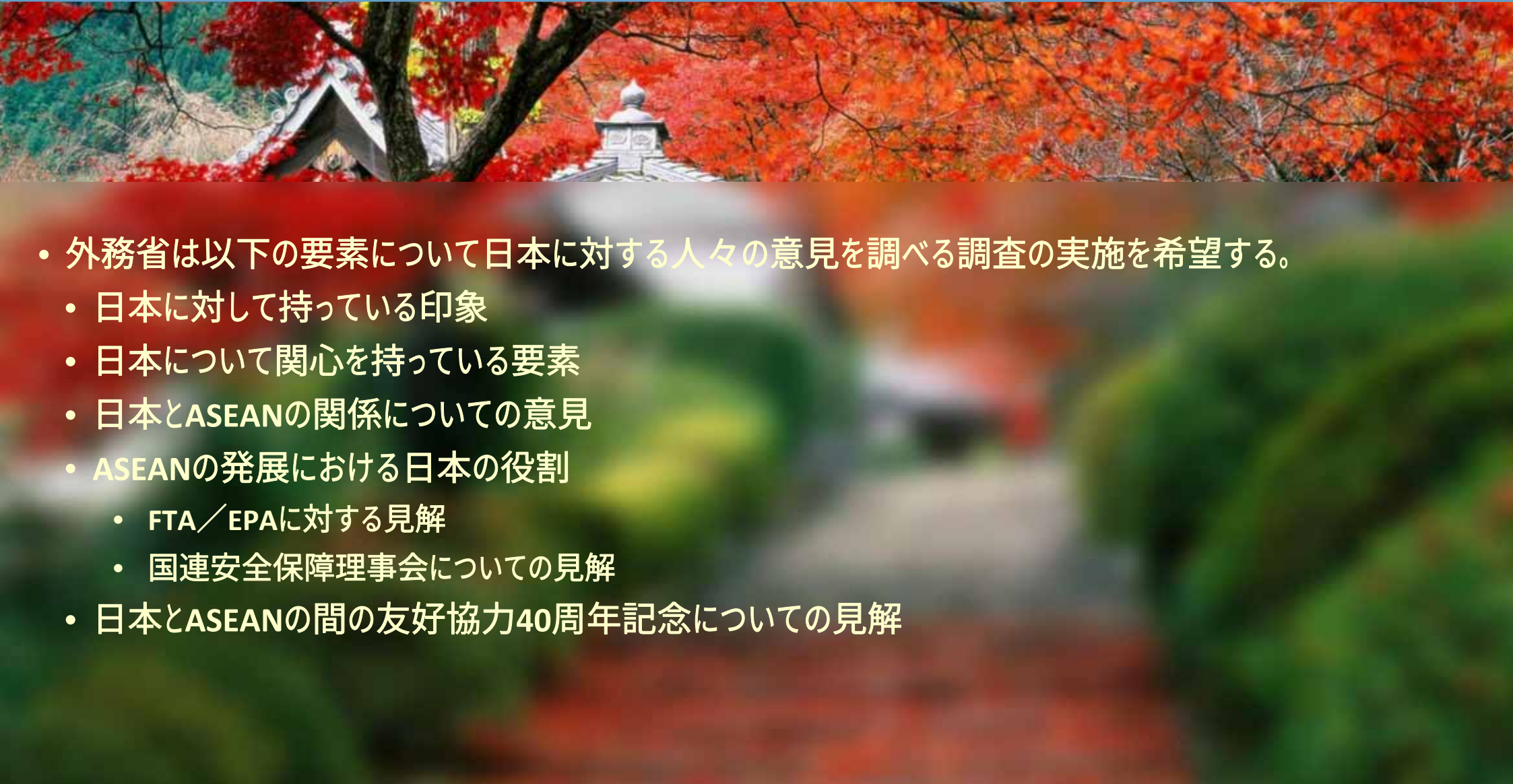
2014年3月31日

© 2014 Ipsos. All rights reserved.

Contains Ipsos' Confidential and Proprietary information and may not be disclosed or reproduced without the prior written consent of Ipsos.



調査の背景と目的	3
調査の設計	4
エグゼクティブ サマリー	7
主な調査結果	15
回答者層に関する情報	53

- 
- 外務省は以下の要素について日本に対する人々の意見を調べる調査の実施を希望する。
 - 日本に対して持っている印象
 - 日本について関心を持っている要素
 - 日本とASEANの関係についての意見
 - ASEANの発展における日本の役割
 - FTA／EPAに対する見解
 - 国連安全保障理事会についての見解
 - 日本とASEANの間の友好協力40周年記念についての見解



方法

オンラインパネル



調査の回答者

18歳以上の一般市民



調査期間

2014年3月1日～3月16日



回答者数

合計	=2,144人
インドネシア	=302人
マレーシア	=317人
ミャンマー	=309人
フィリピン	=307人
シンガポール	=305人
タイ	=300人
ベトナム	=304人



インタビュー時間

平均10分間



重みづけ

年齢×人口データに基づく性別の調整



構成

男女いずれかが40%以上

ベトナム、インドネシア、ミャンマーを除くすべての市場:
50歳以上が15%以上

ベトナムとインドネシア:
40～49歳が10%以上、50歳以上が5%以上

ミャンマー:
40～49歳が5%以上、50歳以上が1%以上

無職の人の割合はインドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマーでは40%以下、それ以外の地域では30%以下

低所得者層、中所得者層、高所得者層はそれぞれ20%以上

マレーシア:
中国人が25%以上、マレー人は60%以上



使用言語

	言語
インドネシア	英語、バハサインドネシア語
マレーシア	英語、中国語、バハサマレー語
ミャンマー	英語、ビルマ語
フィリピン	英語
シンガポール	英語
タイ	英語、タイ語
ベトナム	英語、ベトナム語

エグゼクティブ サマリー



日本に対して持っている印象

日本は調査対象の国の中で、最も信頼できる国として評価された。フィリピンとシンガポールを除き、調査を行ったすべての国で同じ意見が聞かれた。フィリピンではアメリカが最も信頼できる国として挙げられ、シンガポールでは日本とアメリカが同程度に信頼できる国と評価された。

90%以上の回答者が自分の国と日本の間に友好関係があると答えた。ミャンマーで友好関係の有無についての質問で上位2分類を選んだ人の割合が大きかった (88%) のは、主に「やや友好的」を選んだ人が多かった (66%) ことによる。半数以上 (57%) の人が日本の信頼性を肯定している。シンガポールではこの点について他の国とは違う回答となり、肯定したのはわずか36%であった。日本を信頼するという回答はインドネシアで最も多く (71%)、次いでベトナム (65%) であった。

日本は、技術的に進んだ国 (81%) とみなされる割合が高く、次いで経済的に進んでいる国 (62%)、自然の景色が美しい国 (62%) と見られている。フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムも日本を文化的に豊かな国と見ている。

日本について関心を持っている要素

ASEAN全体で人々が日本についてもっと知りたいと関心を示した分野の上位3項目は、科学技術、生活・考え方、食文化であった。ミャンマー、シンガポール、タイ以外のすべての国が科学技術を、最も興味のある項目として挙げた。ミャンマーでは日本の生活様式と考え方を知りたいと答えた人が最も多く、シンガポールとタイでは、食文化が最も興味のある分野とされた。コミック／アニメをもっと知りたい分野として挙げたのは、インドネシアであった。シンガポールとタイは日本の伝統文化／芸術についてもっと知りたいと回答した。さらに、ミャンマーは経済技術協力をも求めているのに対し、ベトナムは事業開発についてもっと知りたいと答えた。

回答者の10分の1がすでに日本語を勉強しており、学ぶ生徒が多かったのはインドネシア (18%) とタイ (13%) であった。インドネシア人は日本語の学習に最も高い関心を示し、半分の人がすでに学んだことがあるか、または学びたいと答えている。日本語を学ぶ主な理由は、日本に旅行で来た時に使える (62%) からと答える一方で、半分以上が単純に日本の文化が好きだと答えた。

日本について関心を持っている要素 (続き)

80%以上の回答者が日本についての情報を得る主な情報源をインターネットに頼っており、続いて新聞／雑誌／書籍 (63%) とテレビ／ラジオ (52%) となった。ミャンマーでは、おそらくITインフラがいまだ開発途中にあるために、インターネットへの依存度が比較的小さく (55%) 代わりに映画とテレビ／ラジオが同様に重要な情報源とされた。タイではTV／ラジオ (61%) のほうが新聞／雑誌／書籍 (55%) よりも好まれる情報源であった。

日本とASEANの関係についての意見

日本 (65%) はASEAN各国において最も重要なパートナーとみなされている。日本の次が中国 (48%) とアメリカ (47%) であった。ミャンマーとシンガポールを除くすべての国で、最も重要なパートナーとして日本を挙げる人が最も多くなっている。ミャンマーでは、アメリカを現在最も重要なパートナーとする人が最も多く (アメリカ48% vs. 日本44%)、シンガポールでは中国を現在最も重要なパートナーとする人が最も多 (中国60% vs. 日本50%) かった。日本はまた、最も重要な将来のパートナーであるともみなされている。ただし、将来の重要なパートナーとして日本を選んだ人は現在の重要なパートナーとして日本を選んだ人よりも若干少なかった (60%将来 vs. 65% 現在)。2位と3位の地位は、ここでも中国 (43%) とアメリカ (40%) が占めた。シンガポールの回答者の中では、将来最も重要なパートナーとして中国を選んだ人が最も多く (51%)、日本を選んだ人 (39%) の割合と大きな差があった。

8割近くが協力関係を強化する分野のトップとして科学技術を挙げ、貿易投資 (72%) と地球環境問題 (62%) がこれに続いた。インドネシアとベトナムの人はエネルギー分野でより多くの協力を求めており、タイの人は旅行業界における関係強化を望んだ。

ASEANの発展における日本の役割

ASEAN諸国は全体として、日本はアジア発展のために積極的に働きかけているというプラスの評価をしている（90%以上）が、シンガポールではこの評価をしているのは全体の4分の3ほどで、17%は日本はあまり積極的ではないと考えている。9割近くが日本の経済技術協力は自国の発展に役立ったとしている。この点でもシンガポールは、日本が貢献したと考える人の率が最も少なく（76%）、反対にベトナムでは最高の割合（98%）を占めた。95%が日本企業のASEAN市場への進出を歓迎している。日本企業のASEAN市場への進出を最も歓迎しているのはフィリピン（85%）で、ベトナム（74%）がそれに続く。

4分の3以上（77%）が経済技術協力の面で日本がより貢献することを望んでおり、次点として貿易振興と民間投資における貢献も望まれている（67%）。経済技術協力は、日本がもっと貢献できるとASEAN諸国が考える項目リストのトップに挙げられた。シンガポール人は経済技術協力と文化交流は同等に重要だとする一方で、インドネシアの人は地球環境保護よりも、文化交流への支援を望んでいる。

ASEANの発展における日本の役割 (続き)

- FTA／EPAに対する見解

61%が日本とASEANの間のFTA／EPA交渉について知っていた。この交渉の認知度はベトナムにおいて最も高く(80%)、次にタイ(78%)、インドネシア(73%)と続いた。3分の2が日本とASEANの間の(経済分野だけではない)関係性の強化を望んでおり、次にASEAN諸国の間での投資の拡大(63%)と経済構造の改革／発展(63%)が望まれている。シンガポールとタイはもっと多くの投資や貿易拡大を望む一方、インドネシア、マレーシア、フィリピンは経済構造の改革と発展を望んでいる。

- 国連安全保障理事会についての見解

68%が国連安全保障理事会の機能について認識しており、インドネシアにおいて最も高い認識度(86%)が報告された。80%以上が日本は常任理事国となるべきであるとしており、最も高い支持率はベトナム(91%)において得られた。90%近くがその政策は有益であると考えている。インドネシア、フィリピン、ベトナムの3分の2が政策は非常に価値が高いとする一方で、シンガポールでは価値が低いとされた。

日本とASEANの間の友好協力40周年記念についての意見

98%が記念イベントの実施は価値があることだと考えている。展示会 (63%) が最も興味を持たれ、実際に参加したまたは参加したいと考えるイベントで、次が日本の伝統文化や演劇 (56%) であった。すべての国が展示会をイベントのトップとしたが、ベトナムだけは日本の伝統文化と演劇がより望ましい (67%) と答えた。

主な調査結果

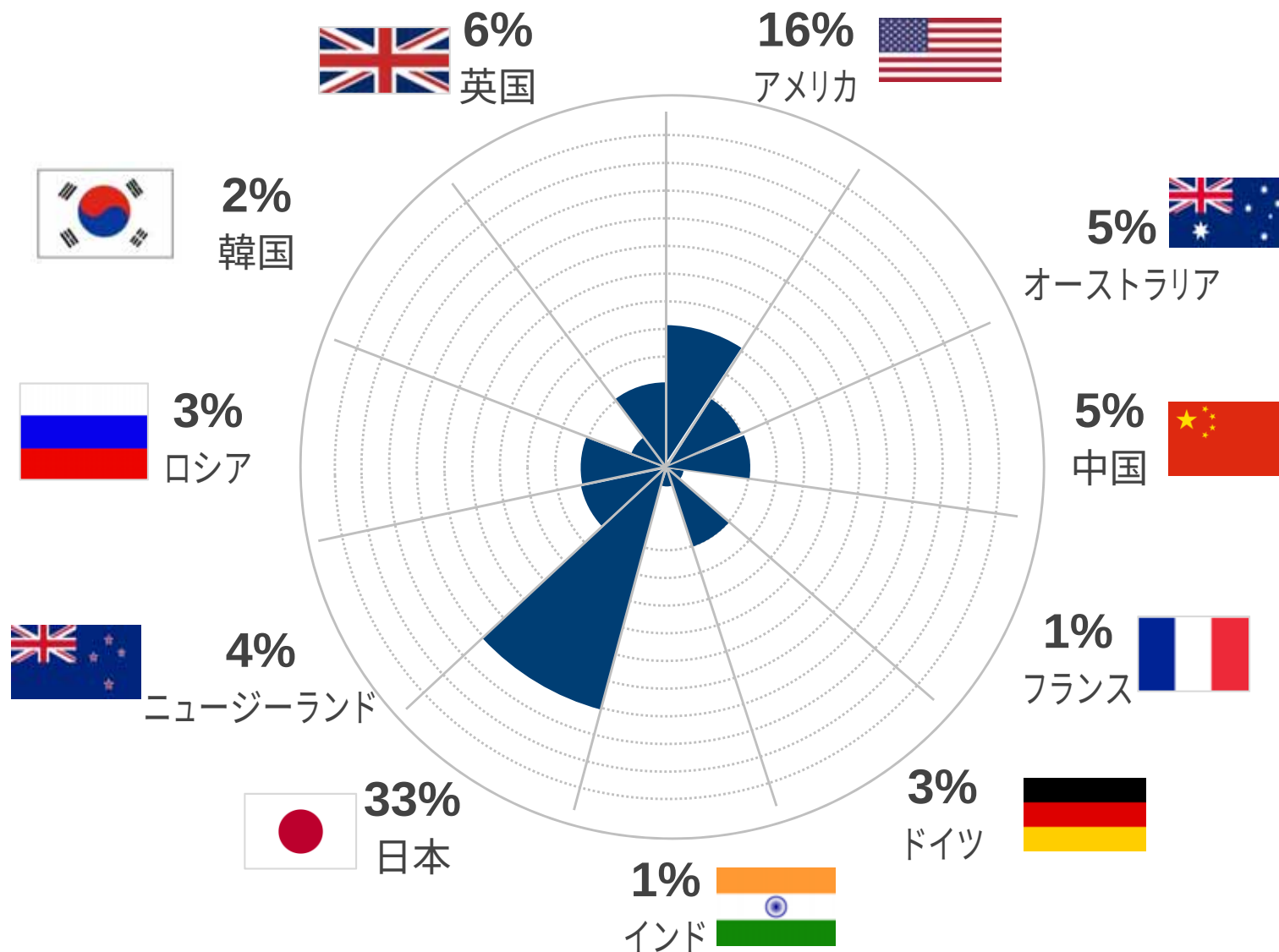


日本に対して持っている印象



全体として日本は調査対象の11の国の中で最も信頼できる国と評価された。

最も信頼できる国 (%)



目盛: 1目盛5%

Q8. 以下のリストにある国の中でどの国が最も信頼できますか？ リストから1つを選択してください。

調査対象: 回答者全員 (2,144人)

日本はフィリピンとシンガポールを除くすべての国で最も信頼できる国と評価された。フィリピンではアメリカが最も信頼できる国として挙げられ、シンガポールでは日本とアメリカが同程度に信頼できる国と評価された。

最も信頼できる国 (%)

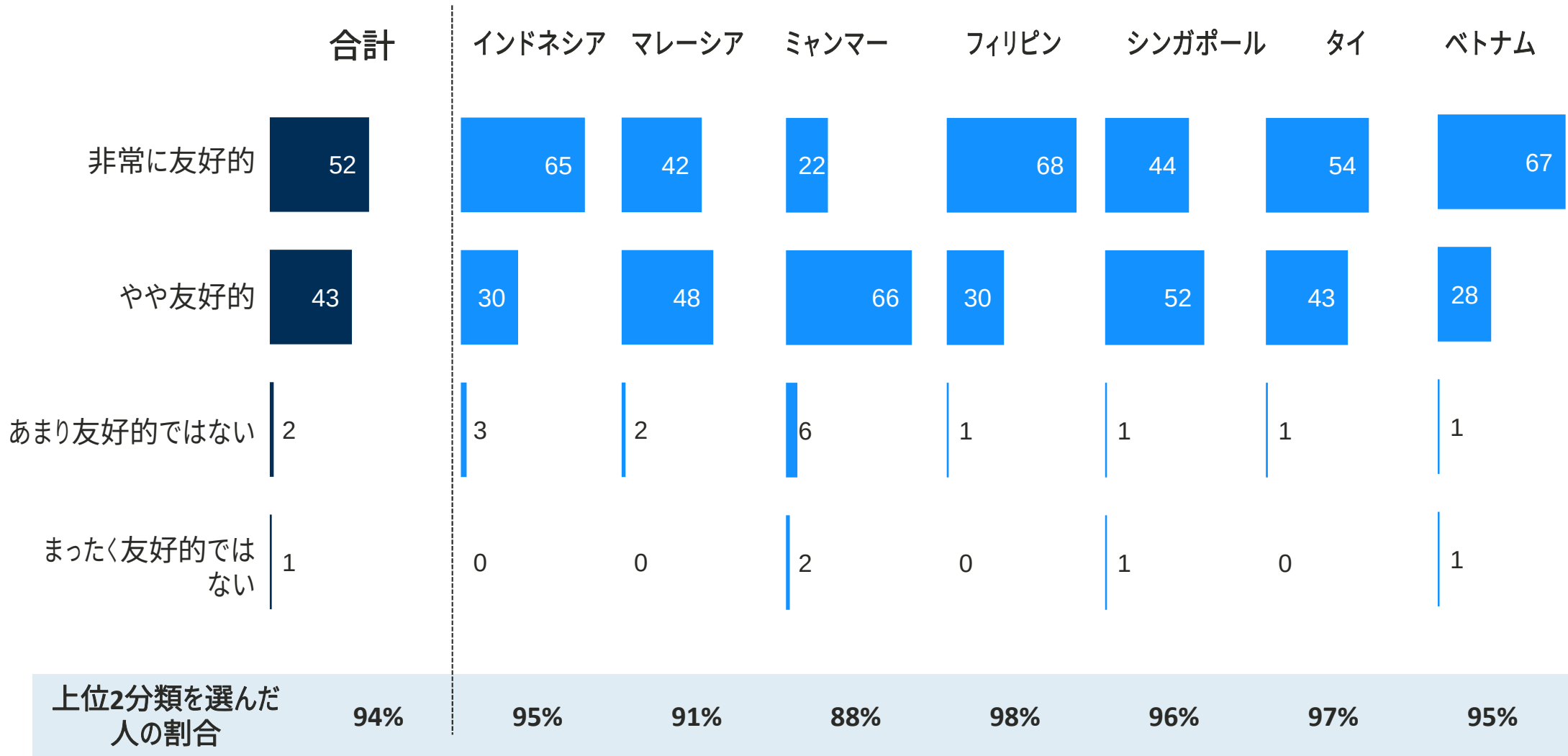
	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
アメリカ	14	3	15	41	13	17	8
オーストラリア	1	7	1	6	10	4	9
中国	5	8	12	2	1	8	2
フランス	-	1	-	1	-	1	2
ドイツ	7	3	-	3	5	2	2
インド	-	1	-	-	1	1	1
日本	47	30	29	31	13	35	46
ニュージーランド	2	8	-	1	10	6	-
ロシア	3	-	1	-	-	1	16
韓国	3	4	1	3	3	2	-
英国	7	9	1	6	6	6	4

Q8. 以下のリストにある国の中でどの国が最も信頼できますか？ リストから回答を1つ選択してください。

調査対象: インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

9割以上の人が自分の国と日本の間に友好関係が存在すると答えている。ミャンマーで上位2分類を選択した人が多かったのは、「やや友好的」の回答が多かった (66%) ことが主な理由である。

自分の国と日本との関係性 (%)

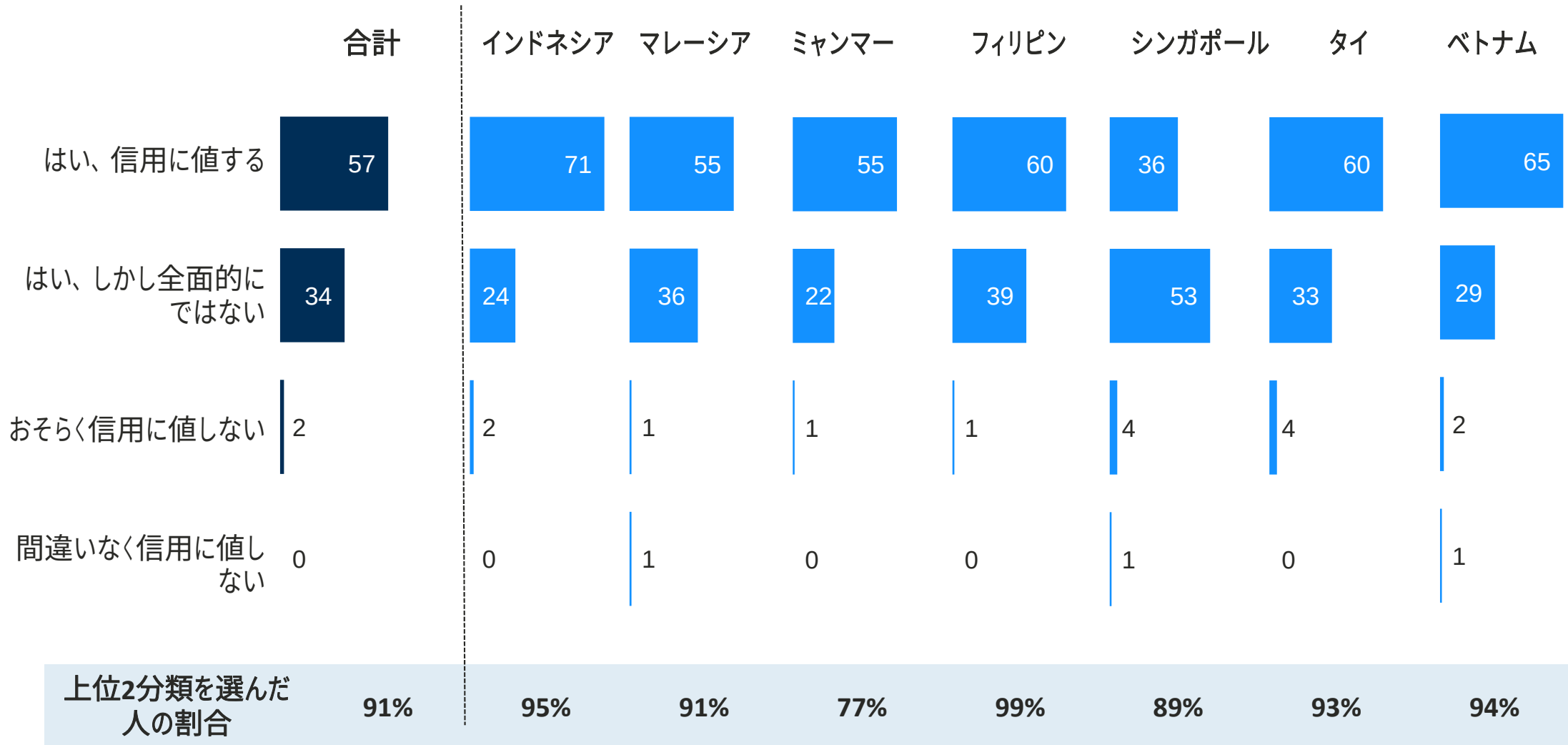


Q6. 自分の国と日本の現在の関係性をどのように考えていますか？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

全体として半数以上 (57%) が日本は信頼できると評価しており、この回答が最も多かったのはインドネシアであった。日本への信頼が一番低かったのはシンガポールだった (36%)。

日本の信頼性 (%)



Q7. 日本はあなたの国にとって信頼できる友だちと考えますか？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

80%以上が日本を技術的に進んだ国とみなし、続いて、経済的に進んでいる国、自然の景色が美しい国という見方が示された。

日本の印象 (%)

81%

技術的に進んだ国

62%

経済的に進んだ国

62%

自然の景色が美しい国



Q1. あなたにとって日本の印象は？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: 回答者全員 (2,144人)

日本に対する印象としてすべての国で最も多く聞かれたのが、技術的に進んだ国、という印象であった。フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムは、日本を文化的に豊かな国ともとらえている。

日本の印象 (%)

	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
技術的に進んだ国	81	77	88	78	85	78	80	79
経済的に進んだ国	62	62	68	54	78	54	58	57
自然の景色が美しい国	62	60	66	29	68	78	67	66
豊かな文化の国	59	58	64	25	69	78	60	60
アニメ、ファッション、料理、その他の現代文化を世界中へ発信し広げる国	44	45	50	10	60	55	55	32
平和な国	35	34	42	19	48	33	31	38
クールなイメージの国	35	40	42	15	37	29	41	43
民主的な国	18	12	21	13	22	21	21	19
自国の経済成長と利益にしか関心のない国	16	19	21	3	14	20	21	15
欧米本位の国	9	11	9	1	10	9	9	15
理解しにくい人々の国	6	4	3	-	6	11	9	8
理解しにくい国	5	3	4	1	5	10	8	4
好戦的な国	4	4	3	-	3	6	5	4

Q1. あなたにとって日本の印象は？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

日本についてもっと知りたい分野

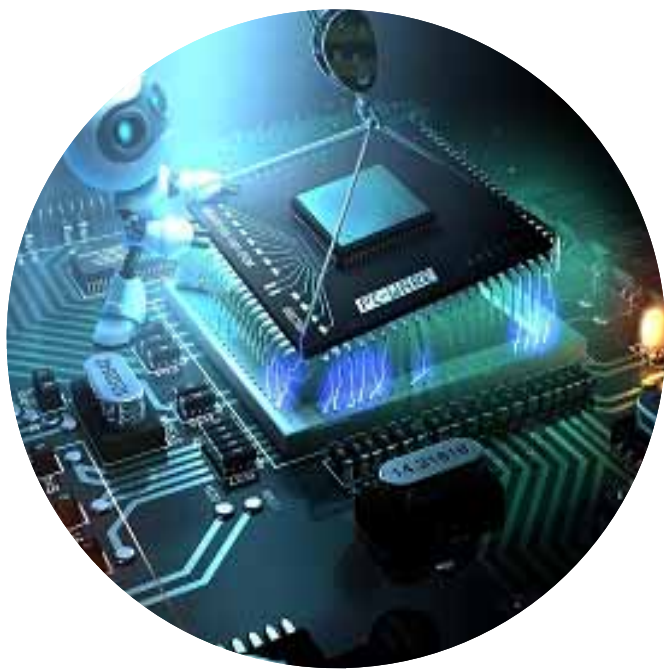


外国の人が日本についてもっと知りたいと興味を示す3つの分野は、科学技術、生活様式・考え方、食文化である。

日本についてもっと知りたい分野 (%)

58%

科学技術



56%

生活様式・考え方



53%

食文化



Q2. 日本のどの分野についてもっと知りたいですか？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: 回答者全員 (2,144人)

© Ipsos Hong Kong

ミャンマー、シンガポール、タイ以外のすべての国が科学技術を、最も興味のある項目として挙げている。ミャンマーの多くの人々が日本の生活様式・考え方に関心を持ち、シンガポールとタイでは食文化が最も興味のある分野として挙げられた。

日本についてもっと知りたい分野 (%)

	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
科学技術	58	63	65	40	72	45	53	64
生活様式・考え方	56	48	64	52	68	56	49	52
食文化	53	52	54	12	63	71	60	62
伝統文化、芸術	47	50	50	21	55	52	49	50
経済	39	43	38	26	49	28	34	53
事業開発	37	36	38	26	50	23	32	54
経済技術協力 (政府開発援助-ODA)	31	36	27	37	41	13	26	39
コミックやアニメ	31	52	32	3	34	28	37	33
歴史と文学	31	35	27	15	48	31	31	31
空手、柔道、剣道を含む武道	27	44	30	7	36	19	27	27
ドラマと映画	23	37	24	3	21	24	24	28
政治、外交政策	19	20	16	17	21	17	14	26
ポピュラー音楽、アイドル	18	33	15	2	19	19	16	20
スポーツ	14	27	11	5	16	7	14	21

Q2. 日本のどの分野についてもっと知りたいですか？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

回答者の10分の1がすでに日本語を勉強しており、インドネシア (18%) とタイ (13%) で学ぶ生徒が多かった。インドネシア人の半数以上が日本語をすでに学んでいるか、学びたいと答えている。

日本語の学習意欲 (%)

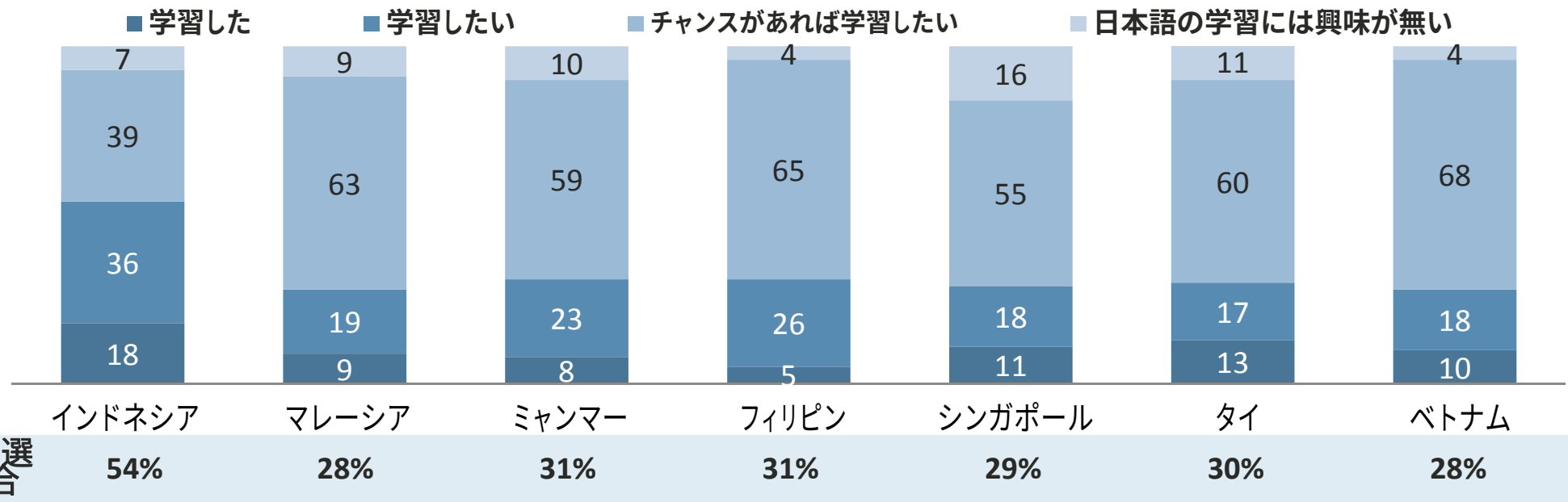
11%

日本語をすでに学習した

22%
学習したい

58%
チャンスがあれば学習したい

9%
日本語の学習
には興味がない



Q4. 日本語を勉強したいですか？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

日本訪問が日本語学習の一番の理由で、次は日本文化への興味。

日本語を学ぶ理由 (%)

62% 日本を訪問したい

51%
日本文化が好き

45%
日本語のコンテンツを
楽しみ、理解したい
(漫画、アニメ、ドラマ)

28%
仕事に役立つ



Q5. 日本語を学ぶ動機は何ですか？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: 日本語の学習に興味があると回答した人合計 (1,957人)

全体的に日本訪問が日本語を学ぶ一番の理由ではあるが、ミャンマー、タイ、ベトナムの回答者の3分の1が日本語の学習は自分の仕事に役立つと答えている。

日本語を学ぶ理由 (%)

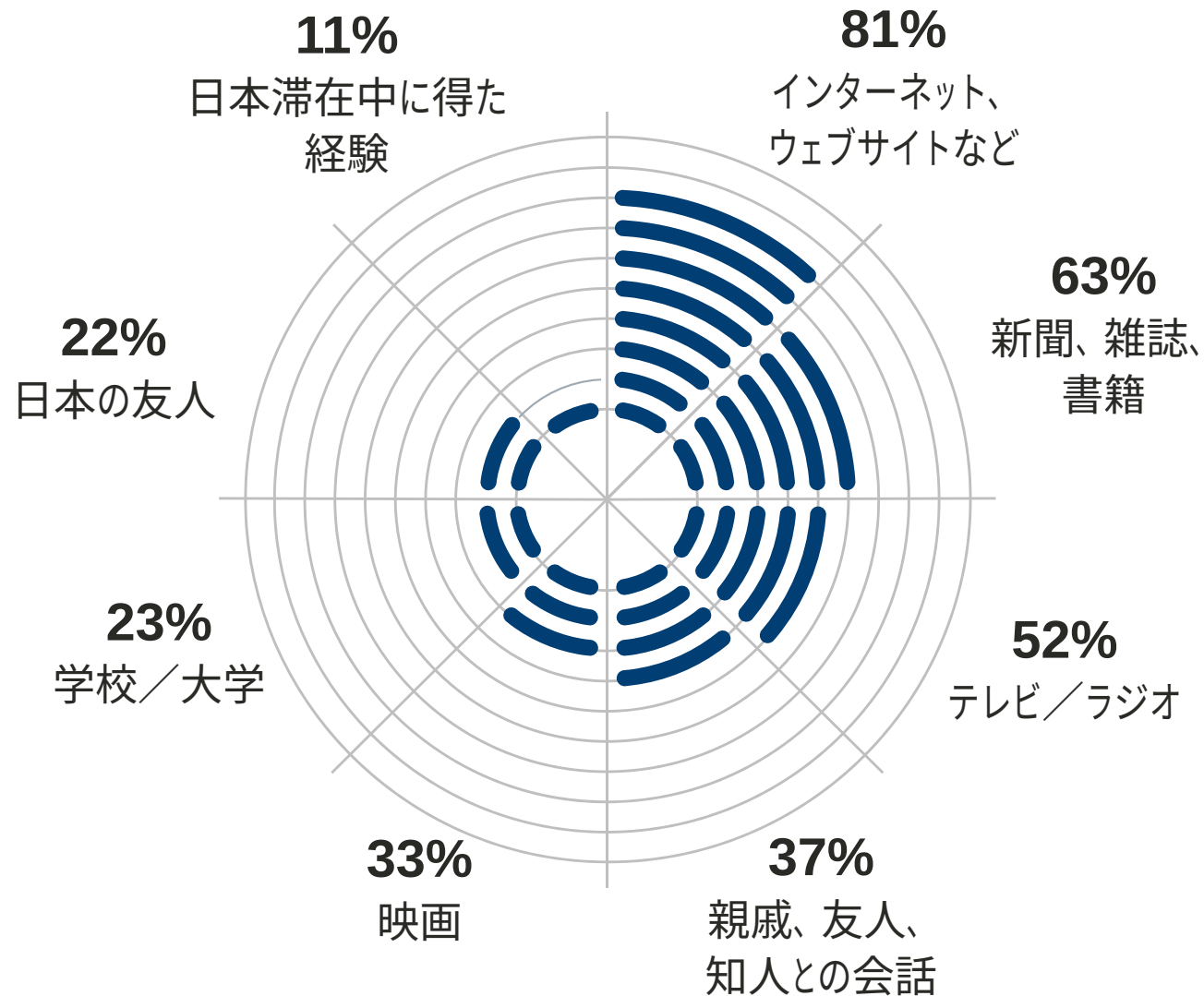
	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
日本を訪問したい	59	64	47	70	62	66	67
日本文化が好き	54	45	27	55	57	56	62
漫画、アニメ、ドラマなど日本語のコンテンツを楽しみ、理解したい	52	51	15	54	52	53	40
仕事に役立つ	24	24	34	24	19	36	32

Q5. 日本語を学ぶ動機は何ですか？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: 日本語の学習に興味があると回答した人 - インドネシア (280人)、マレーシア (287人)、ミャンマー (278人)、フィリピン (295人)、シンガポール (256人)、タイ (268人)、ベトナム (293人)

日本の情報を取得するにあたって80%以上がインターネットに依拠し、次いで印刷媒体、テレビ/ラジオであった。

日本に関する情報源 (%)



Q3. あなたの日本についての情報源は？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: 回答者全員 (2,144人)

全体として日本の情報を得るために最も多く使用される情報源はインターネットであった。ミャンマーではインターネットへの依存度が比較的小さく(55%)、映画とテレビ/ラジオが同様に重要な情報源とされた。タイでは印刷媒体よりもTV／ラジオのほうが好まれる。

日本に関する情報源 (%)

	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
インターネット、ウェブサイトなど	81	90	55	89	84	84	84
新聞、雑誌、書籍	64	72	49	64	69	55	67
テレビ／ラジオ	56	55	29	57	52	61	51
親戚、友人、知人との会話	40	39	24	54	36	33	29
映画	51	20	29	36	23	22	49
学校／大学	25	20	12	38	11	21	33
日本の友人	29	18	6	23	27	25	27
日本滞在中に得た経験	12	8	4	8	23	14	9

Q3. あなたの日本についての情報源は？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

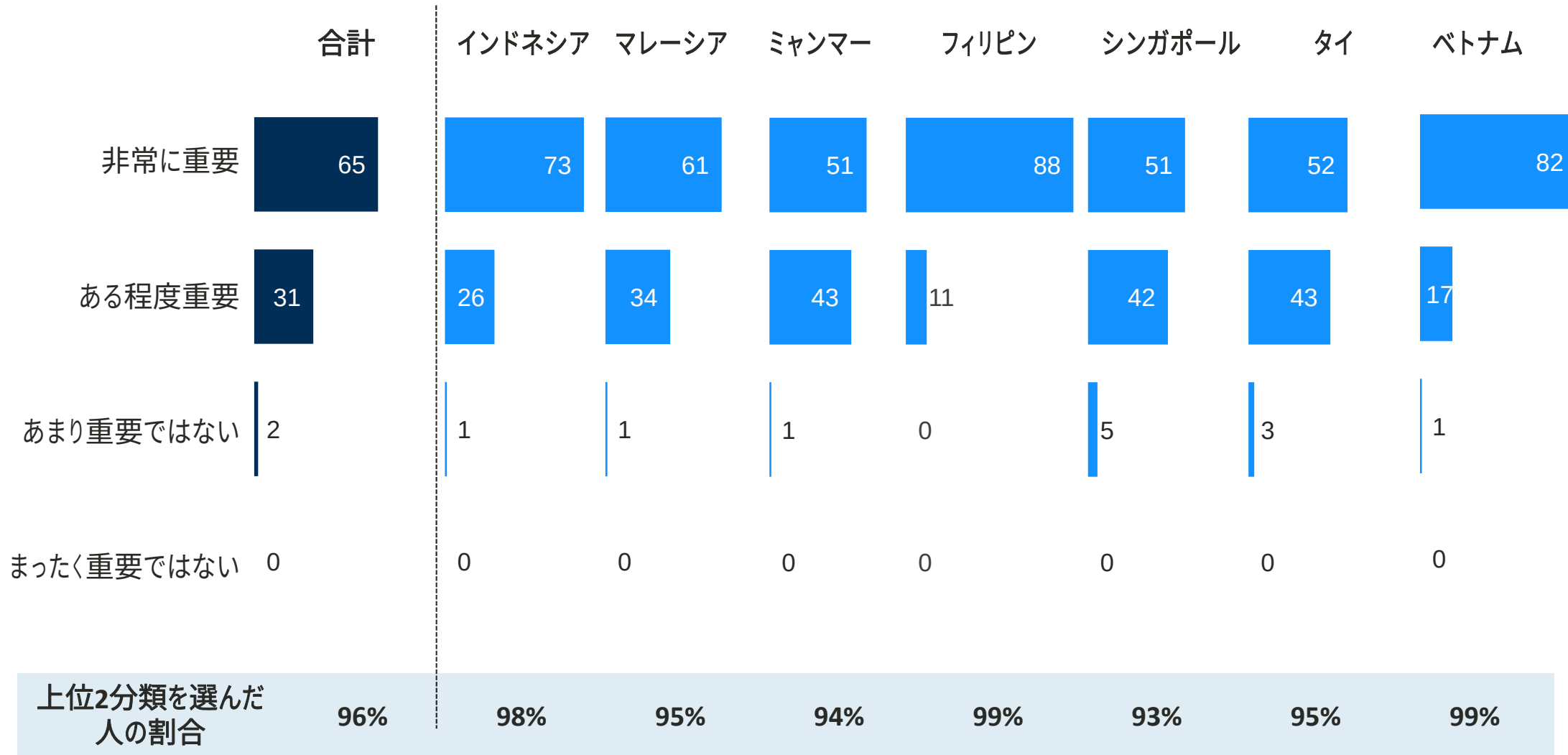
調査対象: インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

日本とASEANとの関係についての意見



96%が日本とASEANの間で友好関係を保つことが重要であるとしている。フィリピンでは88%が友好関係の維持が重要という考えに同意した人が最も多くなるなど、この意見が最も多く聞かれ、次いでベトナムで多く聞かれた。

日本とASEANの間の友好関係の重要性 (%)

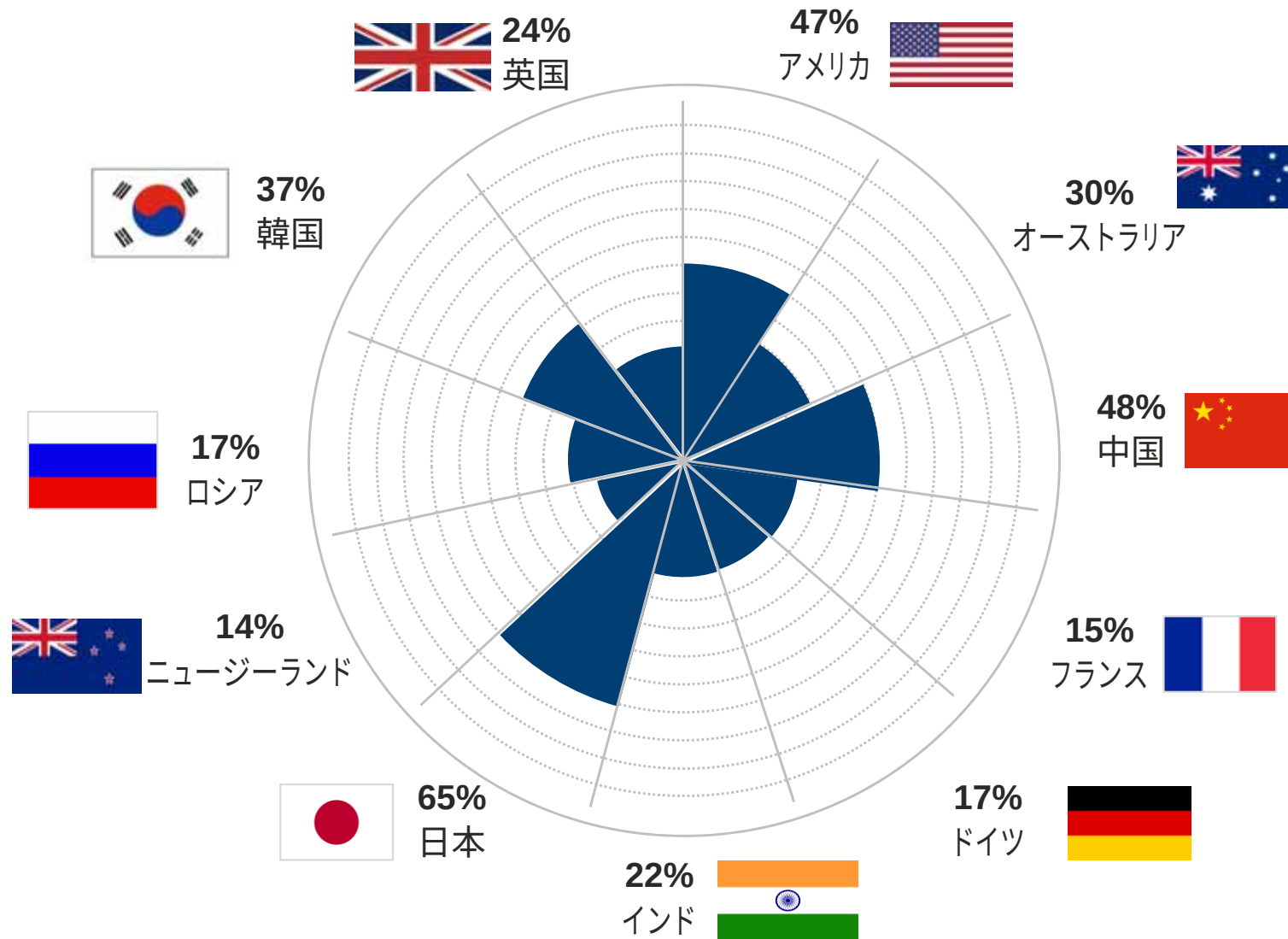


Q18. 日本との友好関係はASEANにとって重要だと考えますか？ (ASEAN=東南アジア諸国連合)

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

日本 (65%) は現在ASEAN各国において最も重要なパートナーとみなされている。次いで中国 (48%) とアメリカ (47%) が挙げられた。

ASEANにとって重要な現在のパートナー (%)



目盛: 1目盛10%

Q20. 以下のうち、ASEAN (東南アジア諸国連合) の現在の重要なパートナーであると考えられる国は? リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: 回答者全員 (2,144人)

ミャンマーとシンガポール以外では、現在の重要なパートナーとして日本を挙げる人が最も多くなっている。ミャンマーでは、現在の重要なパートナーとしてアメリカを挙げる人が最も多く（アメリカ48% vs. 日本44%）、シンガポールでは中国を挙げる人が一番多かった（中国60% vs. 日本50%）。

ASEANにとって重要な現在のパートナー (%)

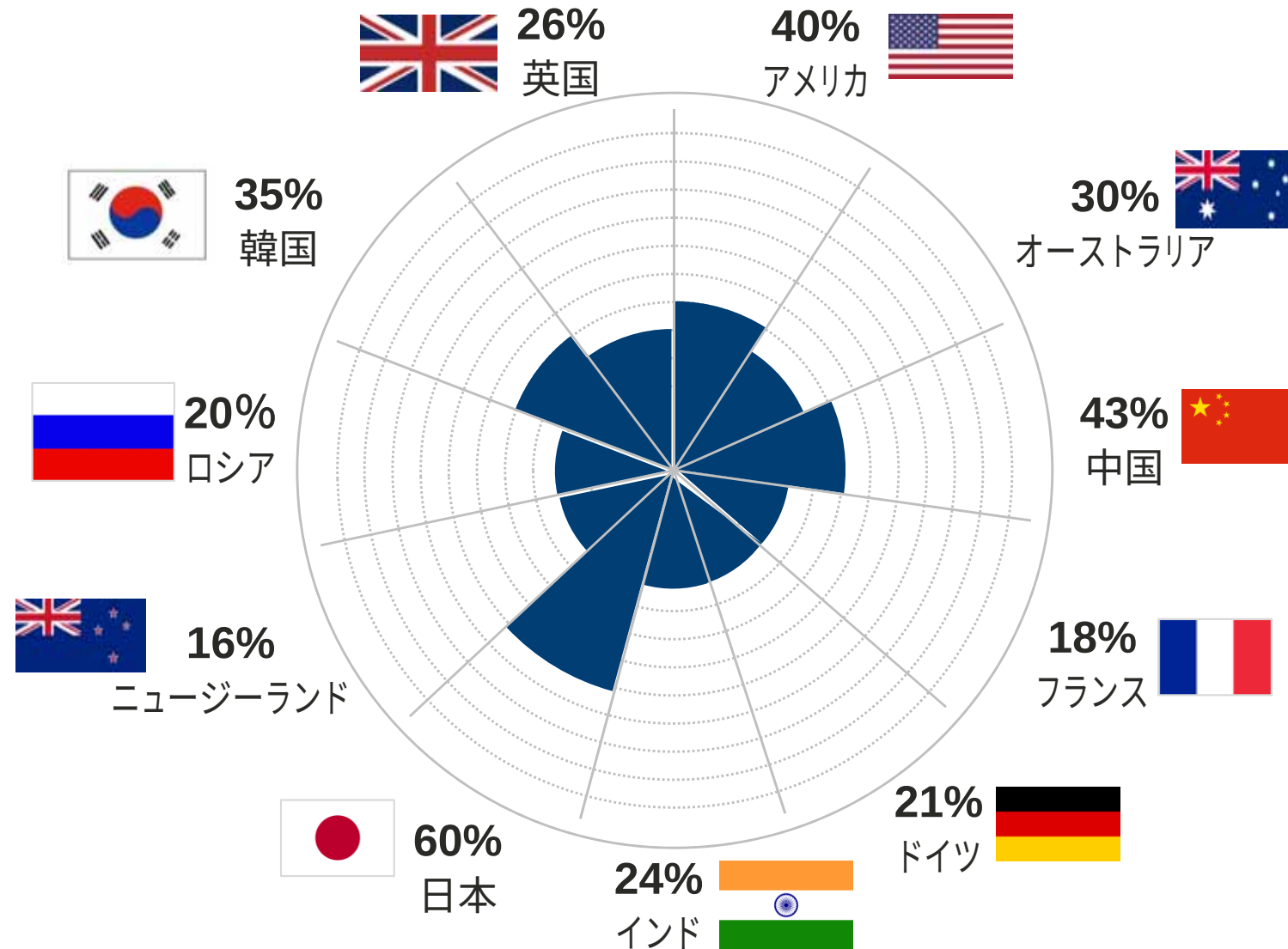
	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
アメリカ	43	36	48	65	42	38	54
オーストラリア	29	37	11	45	38	19	34
中国	52	63	40	32	60	60	32
フランス	12	14	4	22	15	15	21
ドイツ	25	19	4	21	17	12	19
インド	19	25	16	18	31	22	24
日本	70	65	44	76	50	74	77
ニュージーランド	8	16	2	26	20	11	12
ロシア	18	13	9	14	10	11	44
韓国	36	44	20	54	43	29	34
英国	24	28	9	40	24	16	24

Q20. 以下のうち、ASEAN（東南アジア諸国連合）の現在の重要なパートナーであると考えられる国は？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

ASEANの重要な将来のパートナーとしては、日本を選んだ人が最も多く(60%)、次いで中国(43%)、アメリカ(40%)の順となった。

ASEANにとって重要な将来のパートナー(%)



目盛: 1目盛10%

Q21. 以下のうち、将来、ASEAN(東南アジア諸国連合)の重要なパートナーになると考えられる国は? リストからあてはまるものを複数選択してください。.

調査対象: 回答者全員(2,144人)

シンガポール以外の国では、将来の重要なパートナーとして日本を選んだ人が一番多かった。シンガポールでは、中国が最も重要であるとされた（中国51% vs. 日本39%）。

ASEANにとって重要な将来のパートナー (%)

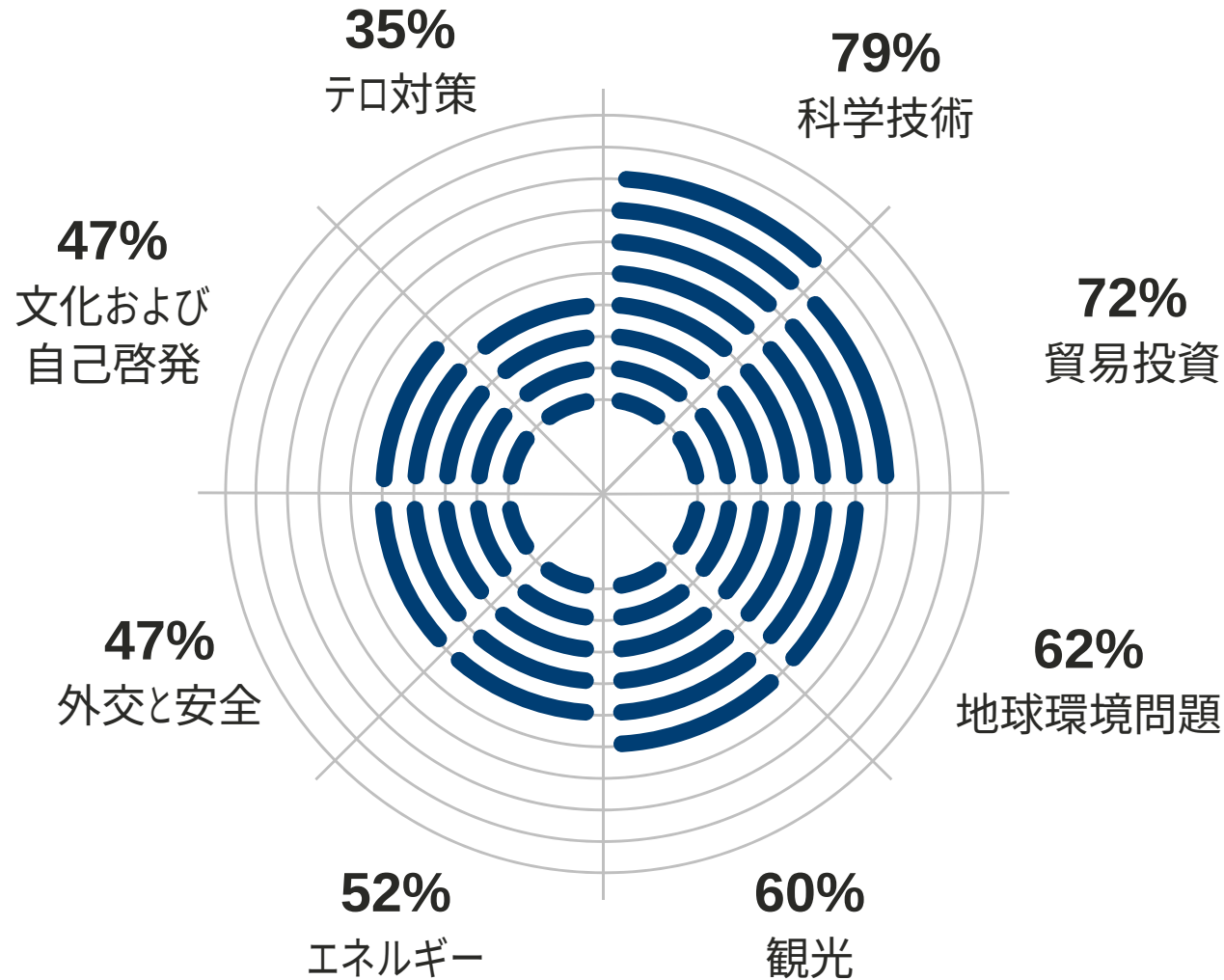
	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
アメリカ	35	30	41	56	36	31	51
オーストラリア	31	36	12	46	36	17	31
中国	48	56	32	25	51	56	30
フランス	15	16	4	32	19	14	23
ドイツ	27	24	5	37	21	14	19
インド	21	27	16	21	35	21	27
日本	66	62	49	64	39	68	71
ニュージーランド	7	25	3	31	20	10	17
ロシア	22	21	4	24	17	12	38
韓国	38	43	20	43	34	25	39
英国	24	30	11	45	29	19	26

Q21. 以下のうち、将来、ASEAN（東南アジア諸国連合）の重要なパートナーになると考えられる国は？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

協力関係を強化すべき分野としては科学技術 (79%) を挙げた人が最も多く、次いで貿易投資 (72%) と地球環境問題 (62%) がこれに続いた。

日本とASEAN間の協力関係を強化すべき分野 (%)



Q19. 日本とASEANの間で協力関係を強化すべき分野は？

調査対象: 回答者全員 (2,144人)

© Ipsos Hong Kong

インドネシアとベトナムでは、エネルギー分野での協力も求められており、タイでは観光に関する協力関係の強化が望まれている。

日本とASEAN間の協力関係を強化すべき分野 (%)

	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
科学技術	82	87	71	85	66	79	80
貿易投資	66	74	65	82	72	78	70
地球環境問題	58	72	40	76	69	59	61
観光	58	68	37	64	60	73	58
エネルギー	60	54	29	57	46	53	64
外交と安全	44	50	25	53	57	48	50
文化および自己啓発	51	50	23	50	50	47	60
テロ対策	29	41	16	49	44	36	32

Q19. 日本とASEANの間で協力関係を強化すべき分野は？

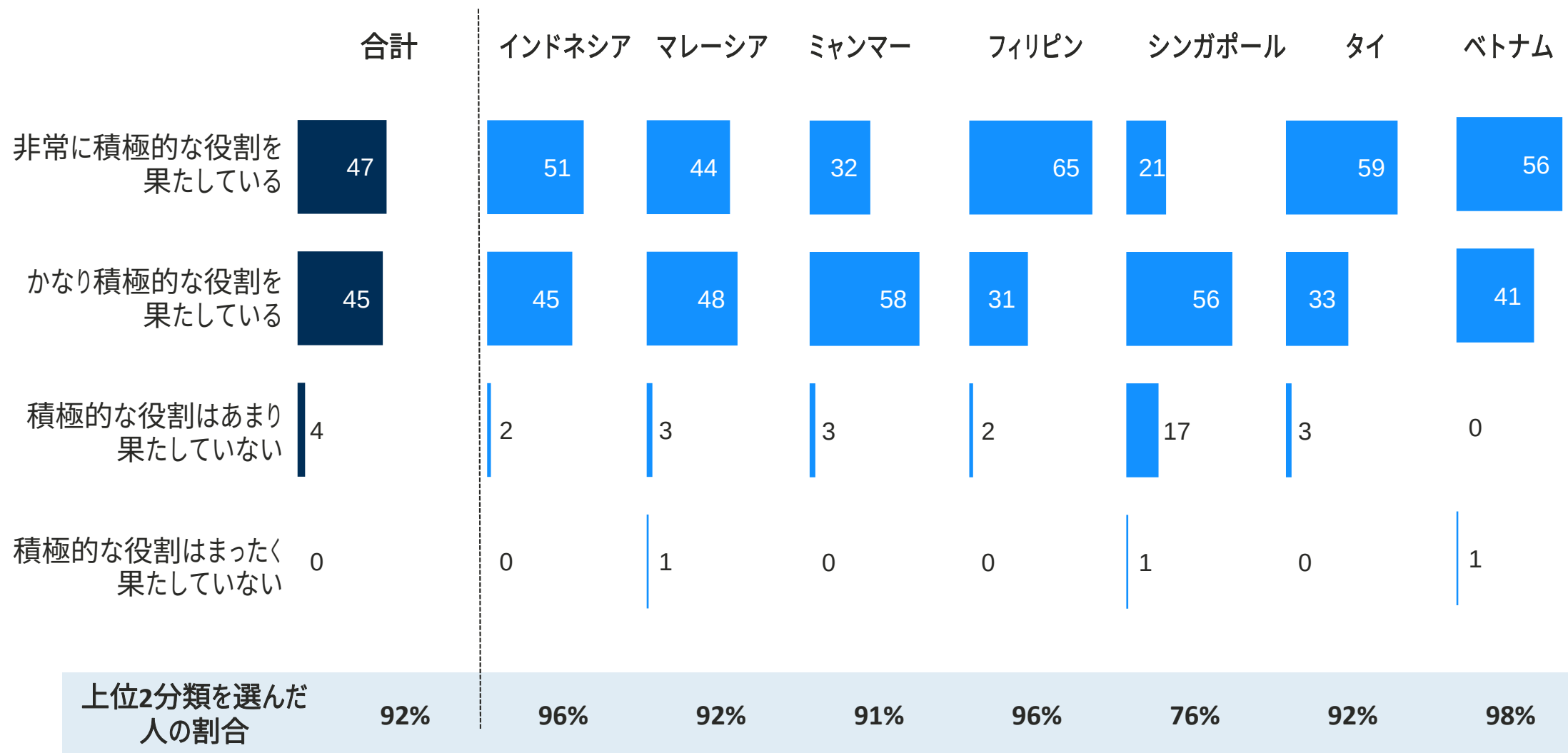
調査対象: インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

ASEANの発展における日本の役割



9割以上の人が、日本はアジアの発展に積極的役割を果たしていると考えているが、シンガポールにおいてこの意見をもつ人は全体の4分の3ほどで、17%の人は日本はあまり積極的ではないと考えている。

アジアの発展における日本の役割 (%)

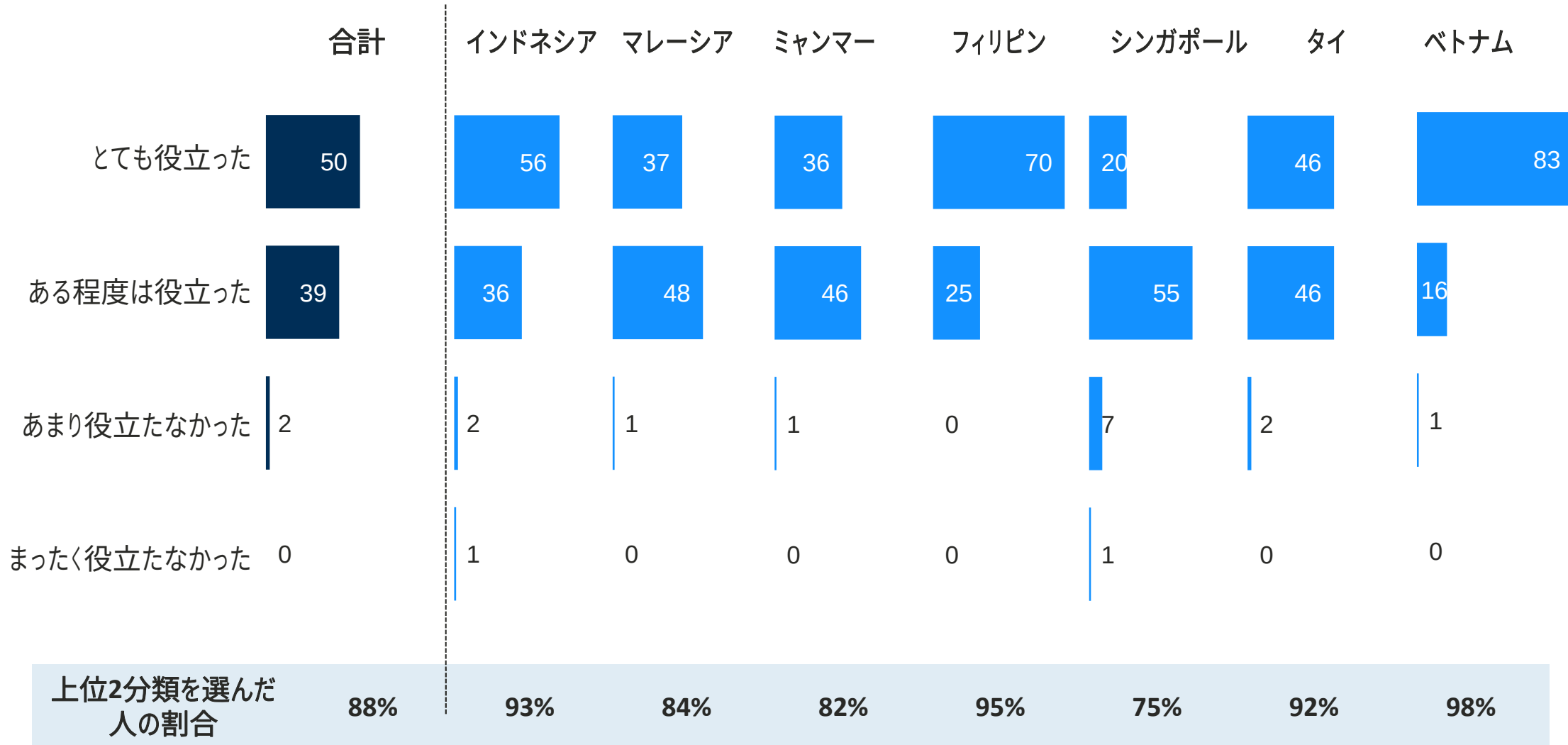


Q11. 日本はアジア社会の一員としてアジアの発展に積極的な役割を果たしていると考えますか？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

9割近くが日本の経済技術協力は自国の発展に役立ったとしている。ベトナムではほとんどすべての人（98%）がこの意見に賛成したが、シンガポールは日本の支援が役立ったと報告する人の割合が最も少なかった（75%）。

日本の経済技術協力が自国の発展に役立った程度 (%)

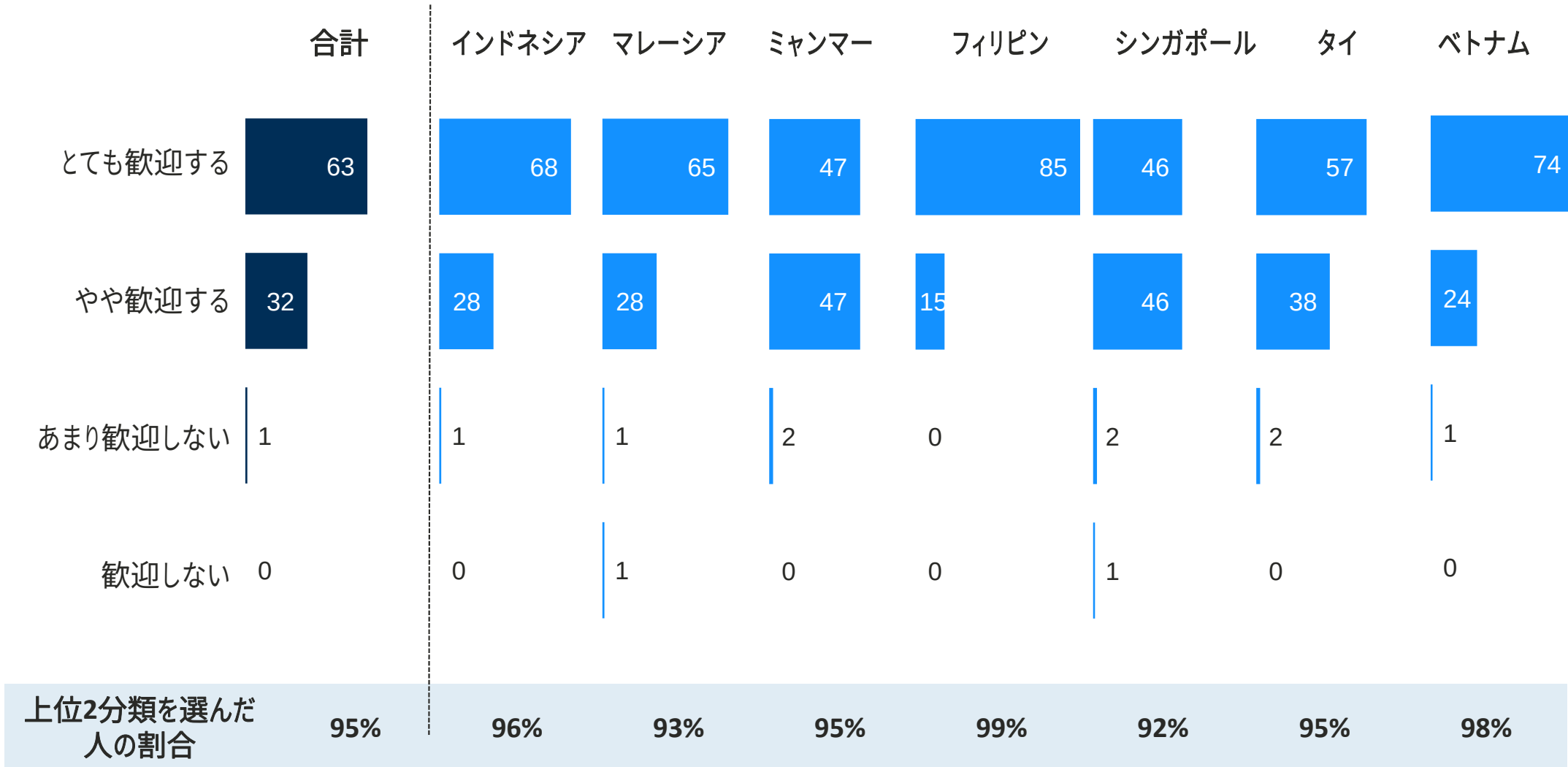


Q9. 日本の経済技術協力（政府開発援助-ODAなど）は自国の発展にどの程度役立ったと考えますか？

調査対象: すべての回答者（2,144人）、インドネシア（302人）、マレーシア（317人）、ミャンマー（309人）、フィリピン（307人）、シンガポール（305人）、タイ（300人）、ベトナム（304人）

9割以上が日本企業のASEANへの進出を歓迎している。フィリピン人の85%、ベトナム人の74%が強く歓迎している。

日本企業のASEAN市場への進出に対する歓迎の度合い (%)

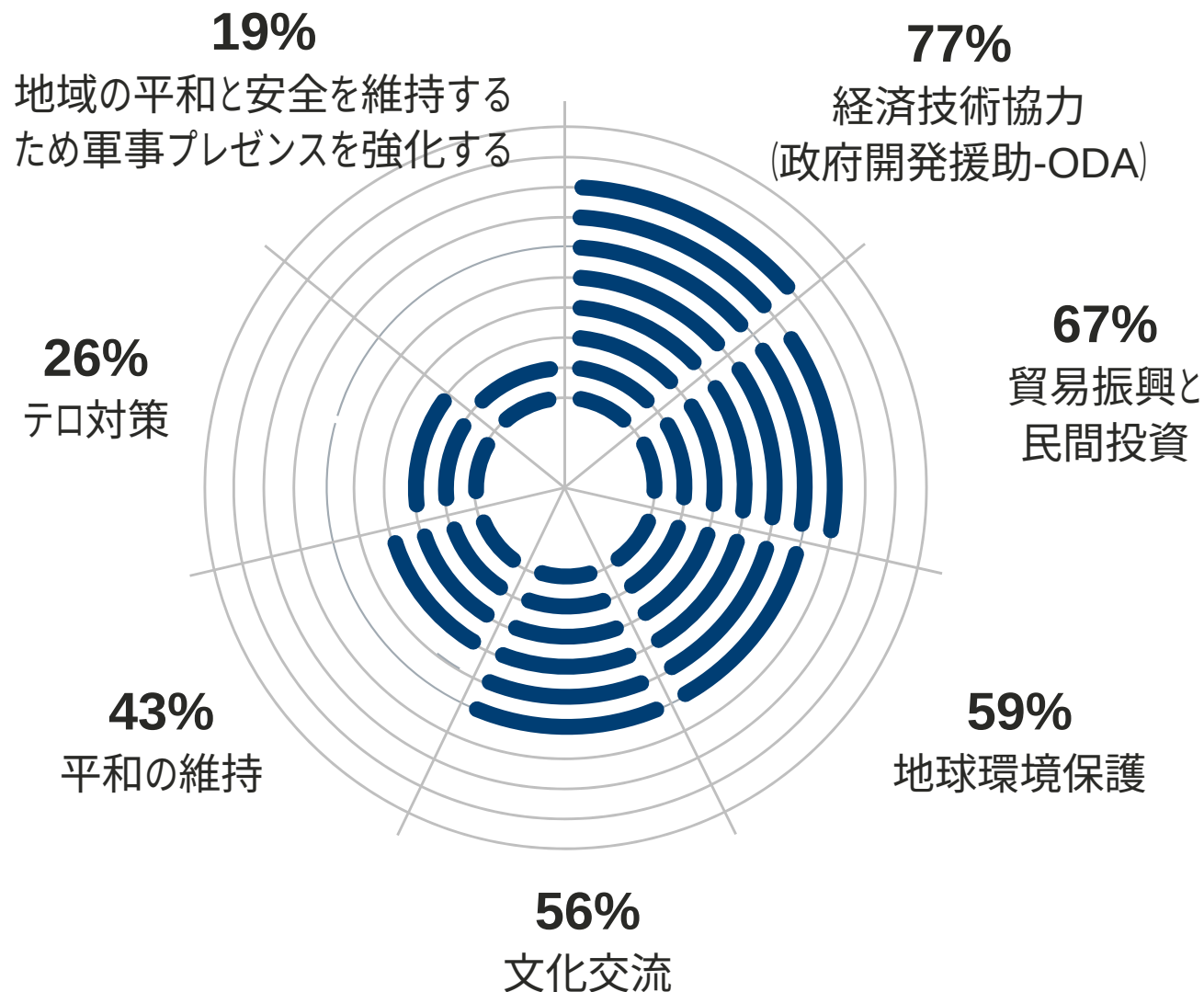


Q10. 日本企業がとASEAN（東南アジア諸国連合）市場へ進出することについて、どのように感じますか？ 歓迎するか、しないかを教えてください。

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

4分の3以上が経済技術協力の形で日本が貢献することを望んでいる。
次に貢献が望まれている分野は貿易振興と民間投資であった。

日本が貢献すべき分野 (%)



Q12. 以下の項目のうち日本に、あなたの国を含むASEAN地域へ貢献してほしいものはどれですか？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: 回答者全員 (2,144人)

経済技術協力は、すべての国がトップの項目としてあげた。シンガポールでは経済技術協力と文化交流が同等に重要だとみなされている。

日本が貢献すべき分野 (%)

	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
経済技術協力 (政府開発援助-ODA)	78	76	82	83	64	75	82
貿易振興と民間投資	68	73	54	75	62	67	74
地球環境保護	51	63	40	72	60	56	68
文化交流	69	61	30	50	64	53	63
平和の維持	51	43	21	61	48	29	49
テロ対策	18	29	13	45	35	22	21
地域の平和と安全を維持するため 軍事プレゼンスを強化する	19	14	5	29	16	21	28

Q12. 以下の項目のうち日本に、あなたの国を含むASEAN地域へ貢献してほしいものはどれですか？ リストからあてはまるものを複数選択してください。

調査対象: インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

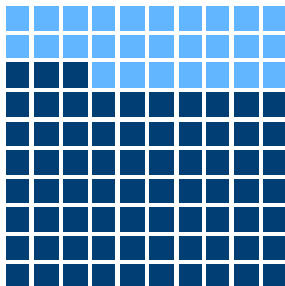
10人中6人が日本とASEANの間のFTA／EPA交渉について知っていた。これらの交渉はベトナム（80%）、タイ（78%）、インドネシア（73%）において高い認知度を得ていた。

日本とASEANの間のFTA／EPA交渉の認知度 (%)

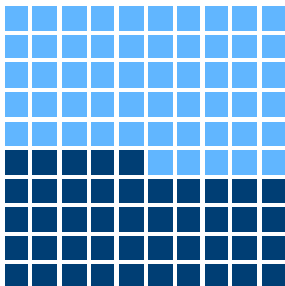
61%

交渉について知っている

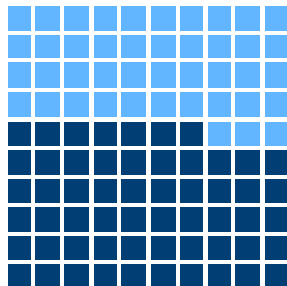
インドネシア
(73%)



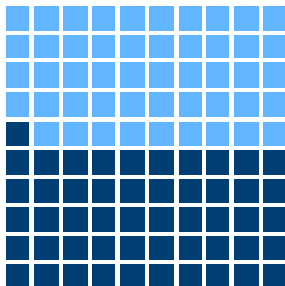
マレーシア
(45%)



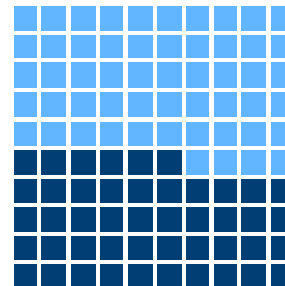
ミャンマー
(57%)



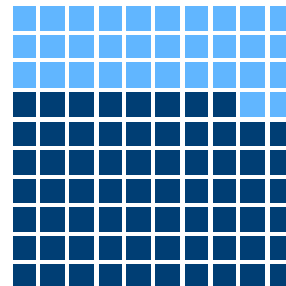
フィリピン
(51%)



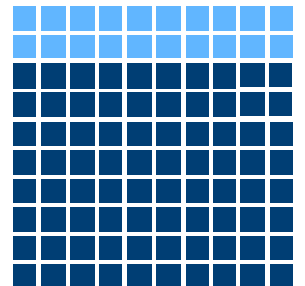
シンガポール
(46%)



タイ
(78%)



ベトナム
(80%)



Q13. 日本がASEAN諸国とFTA（自由貿易協定）／EPA（経済連携協定）を締結または交渉中であるという事実をご存知ですか？

調査対象: すべての回答者（2,144人）、インドネシア（302人）、マレーシア（317人）、ミャンマー（309人）、フィリピン（307人）、シンガポール（305人）、タイ（300人）、ベトナム（304人）

3分の2の人が、日本とASEANの間で、経済分野に限らずすべての面でのつながりを強化することを望んでいる。次いで、投資／貿易拡大と、経済構造改革／発展が望まれている。

日本とASEAN間のFTA／EPAに期待される成果 (%)

66%

経済分野に限らず、日本とASEANのつながりを強化する

63%

投資と貿易拡大

63%

ASEAN諸国の
経済構造の
改革と発展

59%

日本からの
技術支援

36%

人と人との
もっと自由な
交流

Q14. 日本とASEAN諸国との間のFTA (自由貿易協定) およびEPA (経済連携協定) に何を期待しますか？

調査対象: 日本との間でFTA／EPAの交渉が行われていることを知っていると回答した人 - 合計 (1,312人)

シンガポールとタイは投資と貿易拡大を望み、インドネシア、マレーシア、フィリピンはASEAN諸国の経済構造の改革と発展を望んでいる。

日本とASEAN間のFTA／EPAに期待される成果 (%)

	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
経済分野に限らず、日本とASEANのつながりを強化する	63	65	75	71	67	58	68
投資と貿易拡大	52	70	49	71	69	67	65
ASEAN諸国の経済構造の改革と発展	66	71	36	79	66	62	63
日本からの技術支援	58	65	52	62	64	49	63
人と人とのもっと自由な交流	34	36	44	32	43	23	44

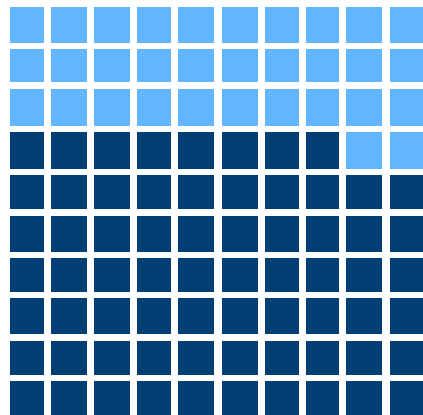
Q14. 日本とASEAN諸国との間のFTA (自由貿易協定) およびEPA (経済連携協定) に何を期待しますか？

調査対象: FTA／EPAを日本と交渉中であることを知っていると回答した人インドネシア (221人)、マレーシア (144人)、ミャンマー (175人)、フィリピン (156人)、シンガポール (139人)、タイ (234人)、ベトナム (243人)

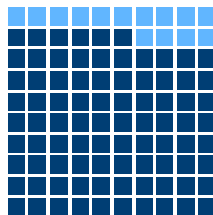
68%が国連安全保障理事会の機能について認識しており、インドネシアにおいて最も高い認知度(86%)が報告された。80%以上が日本は常任理事国となるべきだとしており、最も高い支持率はベトナム(91%)において得られた。

国連安全保障理事会の機能についての認知度(%)

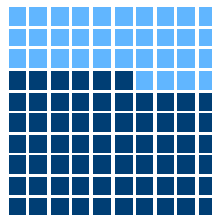
全体(68%)



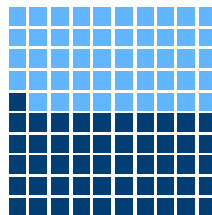
インドネシア
(86%)



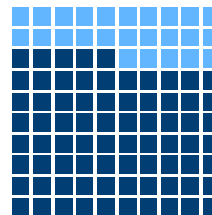
マレーシア
(66%)



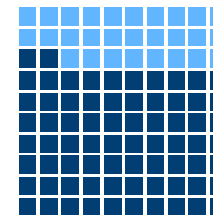
ミャンマー
(51%)



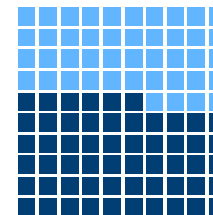
フィリピン
(75%)



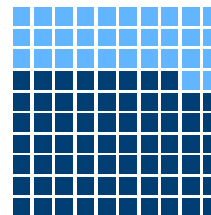
シンガポール
(72%)



タイ
(56%)

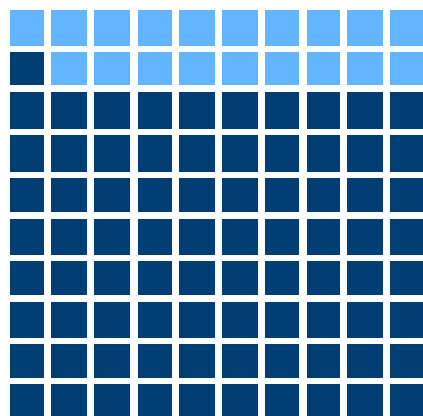


ベトナム
(68%)

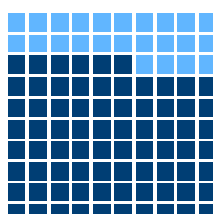


日本の国連安全保障理事会の常任理事国入りへの同意(%)

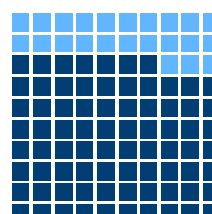
全体 (81%)



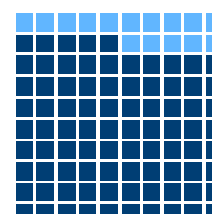
インドネシア
(76%)



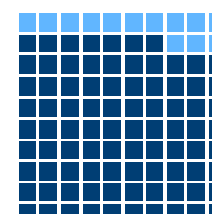
マレーシア
(77%)



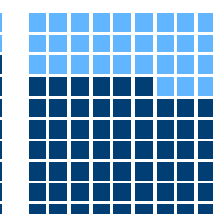
ミャンマー
(85%)



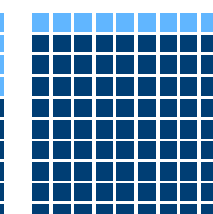
フィリピン
(87%)



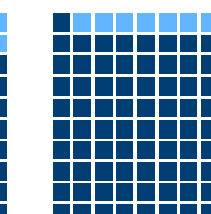
シンガポール
(66%)



タイ
(89%)



ベトナム
(91%)



Q16 国連安全保障理事会の機能について知っていますか？

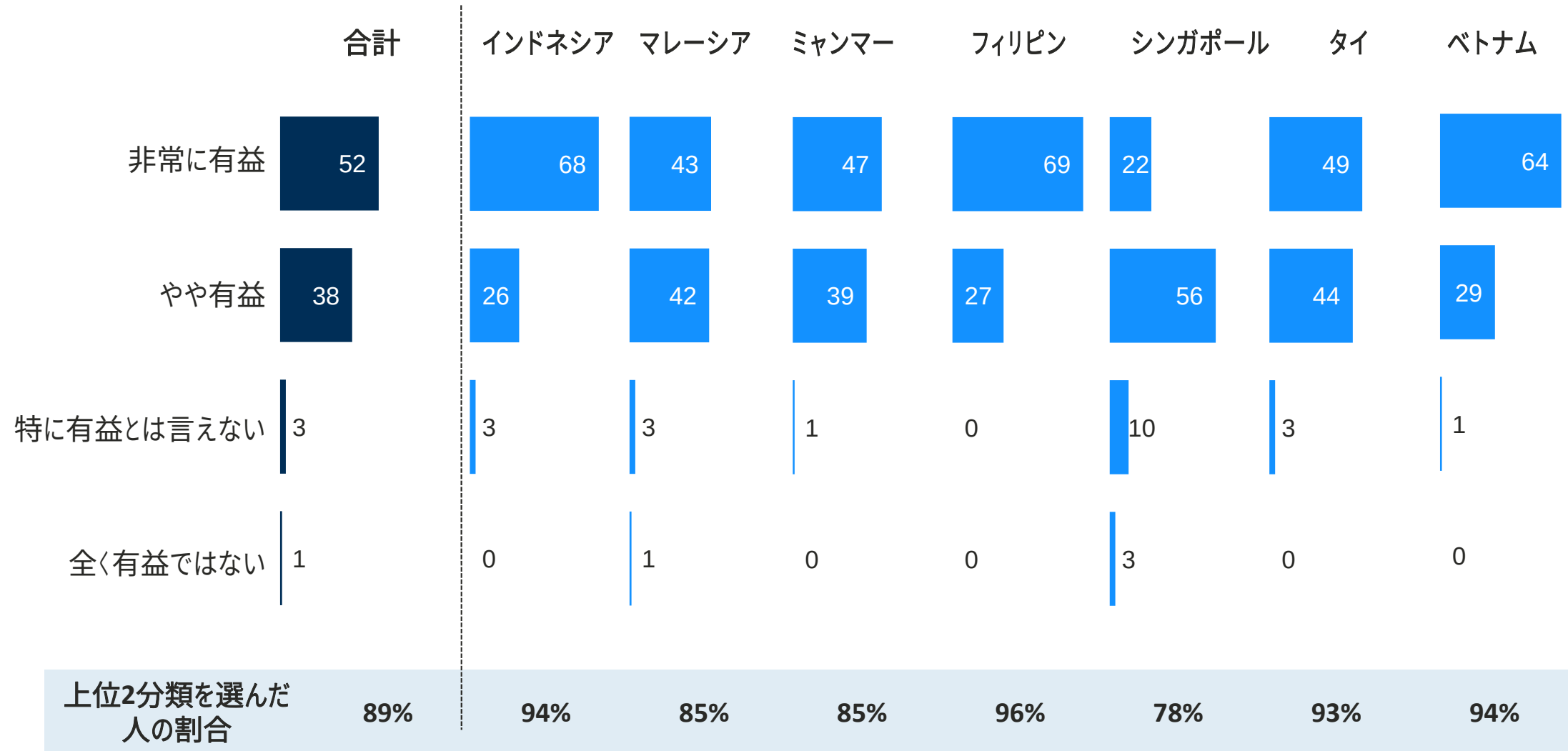
調査対象: 回答者全員 (2,144人)

Q17 日本は国連安全保障理事会の常任理事国となるべきだと思いますか？

調査対象: 国連安全保障理事会について知っていると感じた人 (N=1,429)

90%近くが、その政策は有益であると回答した。インドネシア、フィリピン、ベトナムの3分の2が非常に有益だと評価している。すべての国の中で有益性について最も低い評価したのは、シンガポールであった。

アジア地域の平和維持のための「積極的な平和への貢献」政策の価値 (%)



Q15. 安倍晋三首相は、国際協力に関する以前からの原則に基づき、「積極的な平和への貢献」という立場から、地域および国際社会の平和と安定のためにさらに積極的な貢献を行うという安全保障政策を展開しています。この政策はASEAN諸国を含むアジア地域の平和維持に有益だと考えますか？（ASEAN=東南アジア諸国連合）

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

日本とASEANの間の友好協力40周年 記念についての見解



ほぼ全員 (98%) が記念イベントの実施は有益であると考えている。

記念行事を通して、日本とASEAN間の協力関係を強化することの
有益性 (%)

98% が、その政策は有益であると回答した。

インドネシア
(98%)

マレーシア
(94%)

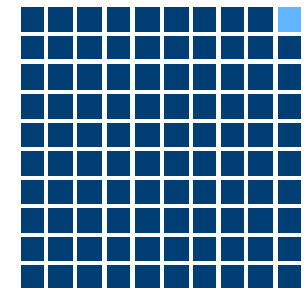
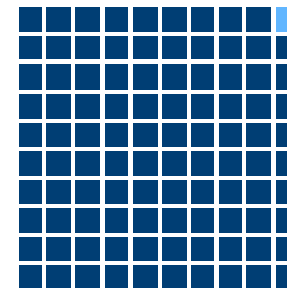
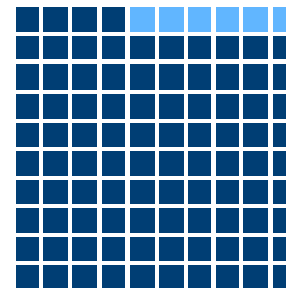
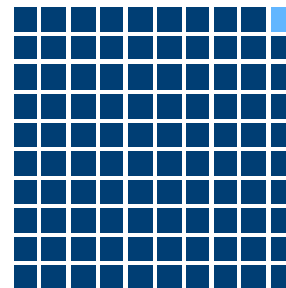
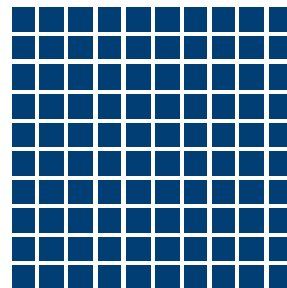
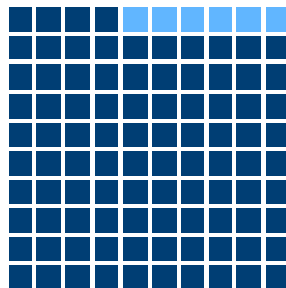
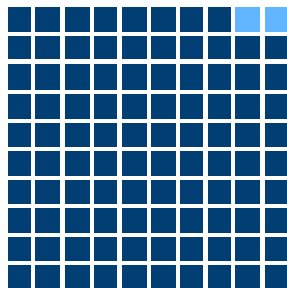
ミャンマー
(100%)

フィリピン
(99%)

シンガポール
(94%)

タイ
(99%)

ベトナム
(99%)



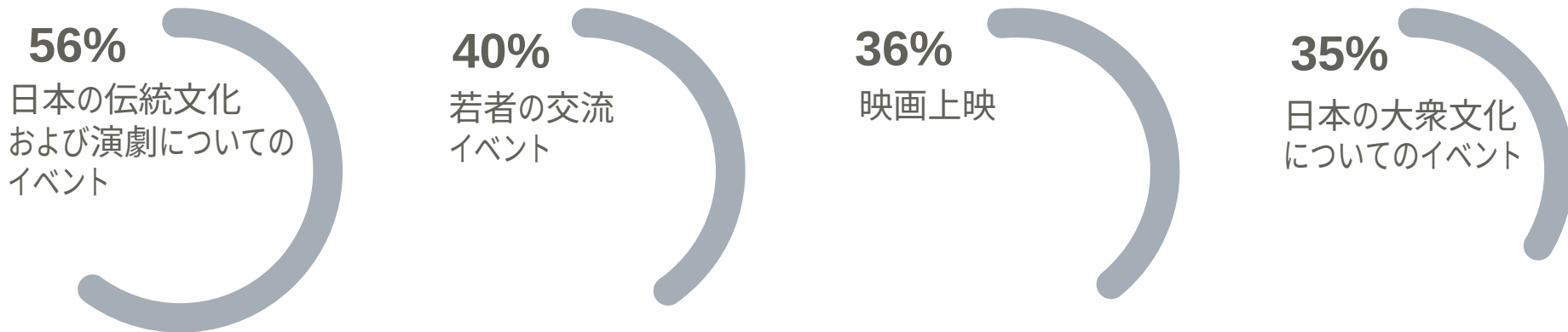
Q23. 日本とASEANの間の第40回友好協力イベントのように、記念行事等を通して、日本とASEANの間の関係を強化することは有益であると考えますか？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

最も多くの人に興味を持ち、実際に参加したまたは参加したいと考えるイベントは展示会で、次が日本の伝統文化や演劇であった。

日本とASEANの間の友好協力40周年を祝って参加したイベント、参加することに興味があるイベント (%)

63% が会への参加したことがある、または参加に興味がある



Q22. 日本とASEANの友好協力40周年の2013年には、ASEAN諸国においてさまざまなイベントが行われました。参加したイベント、または今後、同様の機会があれば参加したいと考えているイベントを選択してください。

すべての国において展示会が最高のイベントと評価されたが、ベトナムの人だけは日本の伝統文化と演劇を一番に挙げた。

日本とASEANの間の友好協力40周年を祝って行われたイベントのうち参加したイベント、
参加することに興味があるイベント (%)

	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
展示会	71	70	45	65	62	68	60
日本の伝統文化および演劇についてのイベント	66	59	32	64	53	55	67
若者の交流イベント	39	43	37	48	28	43	43
映画上映	42	39	22	50	33	27	43
日本の大衆文化についてのイベント	42	26	14	41	35	38	54

Q22. 日本とASEANの友好協力40周年の2013年には、ASEAN諸国においてさまざまなイベントが行われました。参加したイベント、または今後、同様の機会があれば参加したいと考えているイベントを選択してください。

調査対象: インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

回答者の属性に関する情報





性別

♂ **49%**
男性

♀ **51%**
女性



年齢

44% **22%** **20%**
18-34 35-44 45-54

14% **38歳**
55歳以上 平均



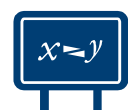
職業

会社経営者	11%
上級管理職	6%
中間管理職	14%
補助管理職	7%
専門職	17%
その他の事務職	12%
肉体労働	2%
主婦	5%
学生	11%
失業中	4%
退職	5%
その他	6%

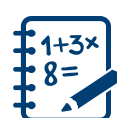


教育

 **25%**
大学院卒業

 **44%**
大学卒業

 **17%**
短大卒業

 **13%**
高校卒業またはそれ以下



収入



1,670USドル
月間世帯収入
(平均)

プロフィール: 性別／年齢／平均所得

性別

%	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
男性	49	50	48	48	50	49	49	49
女性	51	50	52	52	50	51	51	51

年齢

%	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
18-34	44	42	47	48	50	34	36	49
35-44	22	30	22	20	20	25	25	17
45-54	20	15	20	18	23	23	20	24
55歳以上	14	13	11	14	8	18	20	11

平均所得

米国ドル	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
平均	1670	358	1574	373	1015	5811	1843	452

S5. あなたの性別は？

S4. あなたはどの年齢グループに入りますか？

S7. あなたの世帯の月間収入は、すべての収入をあわせた額の税引前の数字で以下のどのグループに入りますか？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

%	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
大学院卒業	25	10	18	57	38	21	17	15
大学卒業	44	67	35	26	28	31	66	58
短大卒業	17	7	25	11	27	30	7	12
高校卒業または それ以下	13	16	21	5	7	18	10	15

S9. 最終学歴は？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)

%	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
会社経営者	11	7	11	11	12	7	14	15
上級管理職	6	7	8	6	3	5	3	9
中間管理職	14	17	10	16	7	18	18	14
補助管理職	7	6	8	6	6	9	10	6
専門職	17	15	16	17	25	20	9	18
その他の事務職	12	15	7	13	9	11	17	12
肉体労働	2	1	3	1	2	5	2	-
主婦	5	7	5	7	7	4	1	3
学生	11	6	17	11	8	10	10	14
失業中	4	2	3	1	12	2	4	2
退職	5	9	6	4	2	4	7	4
その他	6	9	6	8	7	5	5	3

S6. あなたの職業は何ですか？

調査対象: すべての回答者 (2,144人)、インドネシア (302人)、マレーシア (317人)、ミャンマー (309人)、フィリピン (307人)、シンガポール (305人)、タイ (300人)、ベトナム (304人)



連絡先

Clare Lui

エグゼクティブ ディレクター

clare.lui@ipsos.com

+852-2839-0642

Fion Cheung

アソシエイト ディレクター

fion.cheung@ipsos.com

+852-2839-0624

Ipsos 香港はISO20252:2012 年 国際市場調査品質基準の認証を得ており同基準を順守しています。また、ESOMAR 職業行動規範の基準ならびに業界要件に従っています。

2014年3月31日